

【五月の言葉（平成二十八年）】

念仏に遇うとは

「いのちの帰るところがみつかりました」ということです

人間はすぐに自分を見失います。人と比べたり、人の目を気にして落ちこんだり、背伸びして良く見せようとしめます。

念仏は「そのままでもいいんだよ。そのままのあなたを救う」といつも呼び続けてくださっています。念仏に遇うことによつて「このままの私でいいんだ」と自分を取り戻せるのです。

このいのちはどこに向かっていきているのか、どこに帰るのか、大きな問題です。誰しも必ずいのち終える時がきます。いのちの帰るところが見つからなかったら不安です。

阿弥陀如来は「安心して浄土へ帰つておいで、我にまかせよ」と念仏となり、呼び続けておられます。

念仏に遇うということは、いのちの帰るところがみつかりましたということでもあるのです。